

会 議 録 要 約

会議の名称	令和6年度第1回八尾市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
開催日時	令和7年2月7日（金） 午後2時00分～午後4時00分
案件	議事 ・八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の実施状況について ・地域密着型サービスの指定等について ・指定居宅介護支援事業者にかかる介護予防支援の指定等について ・施設整備の状況について（報告）

八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の実施状況について	
委員	同意者リストの活用はどのようにされているのか。どのように活用してよいのか分からない。名簿はどう管理しているのか。八尾市高齢者保健福祉計画の実施状況の資料で、活用していると活用していないの違いは何なのか。まち協に渡す状況になっているのか。
事務局	資料は、同意者リストを受け取った小学校区数を記載しています。 活用方法は地区によって様々で、まちづくり協議会で安否確認などに使ってもらっています。同意者リストで対象者の体のどの部分が悪いのか障がいなどについて分かる様になっています。 同意者リストの活用は地域の防災力の向上や共助を目的にしており、各出張所で受け取れる状況になっています。地区防災計画と合わせて地域でルールを決めて避難訓練などに活かしていただきたい。危機管理課や地域との連携を進めていきたい。
委員	同意者リストは出張所にあるとのことですが、担当地域には出張所がないため、どこに取りに行けばよいのか分からない。民生委員としては、災害時の対応を何とかしたいと考えている。防災について、地域住民は不安を感じています。各地区の民生委員は、リストをどのように活用していけば良いのか把握できていないところがある。
会長	リストの整理や使い方は、より良い高齢者の生活につながっていく。より多くの人が関わってほしい。
事務局	出張所がない地域は、市役所本庁高齢介護課でお渡しします。令和6年度は、高安、南高安小学校区の2地区で活用しています。風水害や土砂崩れを想定した避難経路の作成などに活用してもらっています。活用の仕方は地区それぞれですが、すべての地区に活用してほしい。
委員	自治振興委員の立場として、民生委員が名簿を持っているが共有がされていない。福祉委員会、まち協、自治振興委員会で共有していきたい。
会長	名簿の共有については、行政で検討してほしい。
委員	要支援が増えている。介護度の基準が実態と合っていないのではないか。認知症があれば要介護度が高めに出る傾向がある。介護予防サービスを充実させてほしい。地域活動に高齢者が関わるような社会参加の場が必要。適正なプランのため、ケアマネの研修や自立支援のプランも進めて、利用の適正化が機能するようにしてほしい。居宅療養管理指導、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護サービスの一人あたり給付費は全国平均と比較して3～4倍も多い。何か要因はあるのか。
事務局	認知症の要介護度が高くなるなど、認定制度については適正になるよう国に要望していきたい。居宅療養管理指導、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護サービスの一人あたり給付費が高い状況については、今後、適正化事業を実施する中で分析していきたい。ケアプランの作成については、その人にあったケアプランができていないのかチェックする必要がある、事業所に対して研修を実施しています。

会長	適正化については、費用だけでなく中身の検討をしてほしい。
委員	八尾市は在宅サービスの利用率が高い。高齢者の社会参加をいかに広げていくかがポイント。地域づくりは社協も担っていくが、高齢者にどれほど関わってもらえるかが重要。ケアマネジャーとの接点が少ないため、何らかの形で連携していきたい。介護度が付与されていても活動できる人は地域活動に参加してほしい。
委員	認知症対策で、地域活動として従来のカラオケ、将棋、オセロのほかに、マージャンを4月から始めています。
副会長	地域に情報が入ってこないことがあるのはもったいない。コロナを経験し、今後どうしていくのかかが課題。たとえば「男性が参加しやすい地域活動の工夫」、「自分らしさを活かせる居場所」、「コロナ前に実施できていた活動の復活」など。
委員	地域の施設や集会所でボランティア活動を実施しており、喜んで参加してもらっています。その人の個性が活かされる場所、元気になる場所が増えればよい。そのような場所があれば家族も楽になる。
委員	介護の仕事をしており、介護認定などについてケアマネはもう少しヘルパーの意見を聞いてほしい。介護認定で、家族の方の意見で介護度を上げている場合もある。認定には違和感があることがあり、まともな認定はどのようにすればできるか。ボランティアのなかで、認知がでている人がいるが、椅子を並べる等できる範囲のことをしてもらっている。ボランティア活動を知らない人も多いため、どのようにして参加してもらえるようになるのが課題。高齢者が月1回でも集まる場所がほしい。
委員	元気高齢者の居場所がない。グラウンドゴルフをしようと思っても場所がない。地域の活動をきっかけに、高齢者とこどもをつなげていきたい。地域ネットワーク活動の中で、サ高住との連携を図りたい。
委員	ボランティア活動をする中で、自分も元気をもらっている。どうしたら参加してもらえるのか。自治会に携わらないと災害時についての通知が届かない、もし何かあった場合の避難経路、行けない方へのヘルプをどうすればよいか。
委員	私の地域では、行政手続きに必要なリスト等が作成されています。自宅で身内が亡くなった時にワンストップで手続きできればありがたい。ワンストップの相談窓口を様々な場面で進めてほしい。
副会長	情報が欲しい。スムーズに手続きが進まない。社会参加の場所がないなどは、行政の方で考えていただきたい。
委員	昔にデイサービスの送迎の運転をしていた時に、介護者と利用者を相手に書道の教室を行っていた。今でも介護者と分かち合ったことが記憶に残っている。
委員	歯科に関する資料を載せてほしい。
委員	重症化を予防することが重要。糖尿病は二次的疾患が怖い。特定健診の受診率がまだまだ低いため、受診を徹底してほしい。在宅医療が増えている。サ高住は行政がしっかりみてほしい。ヘルパーの意見がケアマネジャーに通らないのは問題。医療と介護の情報連携が重要。医療関係者も高齢者が増えている。
会長	たくさんの意見がありましたが、行政はこれらの意見を整理し事業に活かしてほしい。